

## 第5分科会

# いきいきとした学校図書館を創造する司書教諭の役割

### 1 発表の要旨

レポート1『読書習慣をつけるために  
石川県金沢市 森山町小学校 白山理恵先生』

「本の良さを感じる子ども」をめざして

(1) はじめに

#### ①金沢市

2011 学校司書が配置・研修

授業に関われるようになり学校図書館の活性化につながったが、週2日・限られた勤務時間の中での打ち合わせができない。

#### ②森山町小学校（研究校として実践）

貸出冊数増加（3冊貸し出し）

(2) 本に触れる機会をつくる

#### ①毎日の読書タイム（5時間目の前10分間）

学級文庫を置かないことが自分で借りる習慣となる。

#### ②読書の機会を増やす

読書タイムはじっくり読めないため、毎週土日の読書の宿題（簡単な感想を書く）

読書に親しむ日の実施（石川県の取り組み）

#### ③読書目標の設定

全校35000冊：各学年目標も設定

（28年度126.9冊/人）

掲示の工夫：読書の花

#### ④図書委員会の取り組み

読書パズル：個人目標に達成→ピースもらう

→クラスのパズルにはめる

・友達同士の声かけで図書館に行く。

(3) よい本の紹介

#### ①学年おすすめの本設定

MORIYAMA 読書ラリー

達成者を廊下に掲示

毎年継続することで達成できる児童が増加

#### ②学習での本を活用

ex 松井さんタクシーリーフレット

並行読書の効果

：学習の中で普段手にしない本と出会い、様々

な分野の本を読むことができる。

（音楽、図工、理科 など）

#### ③学校司書との連携

図書館活用資料リスト（毎年申告してもらう）

年間指導計画作成

司書との連携計画表（担任に回覧）

公立図書館ならの団体貸し出し（FAX・配送）

#### ④図書ボランティアによるよみきかせ

(4) 読んだ記録をのこす

#### ①読書ノートに足跡を残す（市販のノート）

#### ②表彰する

各学期の目標達成者・多読者（各学年3名）

終業式に表彰

目標達成は90%

#### ③図書館の掲示

(5) 成果と課題

成果：貸し出し冊数増加・読書好きな児童の増加

課題：最後まで読まず冊数目標となるため、良さ実感させたい。

レポート2『学びのネットワークの核となる司書教諭の活動のあり方について考える 長野県小中部会（司書教諭委員会）』

#### 1、実践事例

(1) 学校司書の授業参画に際して、司書教諭がどのようにコーディネートすればよいか。（松本市源池小学校事例）

#### ①読書指導

・全学年国語教科書常備し、関連図書など確認し授業に活用。

・図書館の利用割り当て時間活用

（よみきかせ・選書支援など）

#### ②利用指導

・ワークシート作成、活用

・司書教諭と学校司書の授業での役割分担の確認

・担任との連携をすすめる（校内で話題にする）

(2) 学校全体が図書館の資料を共有するには司書教諭がどう関わればよいか。（安曇野市立豊科北小学校）

#### ①授業例：百科事典の使い方の学習

：図鑑の使い方の学習

#### ②資料共有のよさと課題

・資料や時間を効率的かつ有効に使える。

・学習内容が統一される。

- ・数年にわたり学習資料を活用できる。
- ・資料の存在と活用方法を多くの先生に知ってもらうことが課題。

(3) 日誌や記録等を生かした連絡調整のあり方  
 学校司書と司書教諭、学校司書と学級担任間での  
 連絡調整はどのようにしたらよいか

① 図書館利用時間表の活用 (茅野市豊平小学校・  
 湖東小学校)

② 図書館運営委員会の記録の共有 (学校体制での  
 組織的な取り組み) (茅野市米沢小学校)

- ・運営委員会を校務分掌に位置づける。
- ・月暦、週暦への位置づけ
- ・校長、教頭、司書教諭、学校司書、学年1名

(4) 教科等の年間指導計画に沿った図書館利用  
 指導年間計画作成

## 2、終わりに

時間確保の難しさなどの課題がある中、できる  
 工夫を重ね、情報交換をする。「司書教諭と学校  
 司書～力を合わせて図書館教育～(2006年  
 長野県図書館協会発行)」を拠り所にしながら、  
 司書教諭と学校司書との強い協力関係を大切に。

## 2 協議内容

米山 T: 運営委員会の頻度・時間 (司書の勤務時  
 間との兼ね合い) を教えてほしい。

A: 月1回

丸山 T: 並行読書とは。

A: 計画表にそって各教科と図書の活用 (導入や  
 調べる活動 など)

国語では、関連図書をブックトークで紹介。

山田 T: パズルなど準備作成の時間の工夫はどの  
 ようにしているか。

A: 図書委員会活動でパズルを作成。

ラリーは、学年でノート購入。

塚田 T: 図書館教育を広げていくために管理職と  
 して、図書館に行く・児童の様子を紹介  
 をする・環境整備をしていきたい。実践  
 の中 (P 4) で「図書館探偵団」がある  
 が、オリエンテーションというと図書館  
 のきまり指導になりがちだが、図書館で  
 の調べ学習の基本を教えてほしい。

- ・アピール、3冊貸出、宿題 (土日)、読書の日  
 などの条件整備が根拠となり、冊数増加してい  
 る。

- ・可視化: 掲示の変化の大切さ。(壁にしない)
- ・図書委員会の児童のアイデアを大事にする。(子  
 どもを味方に)

○ペダルのこぎ始め (活動を軌道にのせるまで)  
 は重い、動き始めれば進んでいく。活動の質  
 を向上させることで両輪になる。

(様々な活動の中では是非やってみたい活動がある。  
 職員によるよみきかせ: 職員が本のポスターを描  
 いて宣伝をし、児童が自由に選ぶ。)

○活用リストは、使った職員の感想から毎年更新  
 することが大切

○司書教諭の役割: 内部をつなぐ

- ・図書館、児童、学校がわかっているから内部を  
 つなぐことができる。

○学校司書の役割: 外部をつなぐ

- ・公共図書館・図書館同士などをつなぐ。
- ・学校のニーズを発信していく。

○願う子どもの姿

本を読むということは個人的活動 (手にとる、選  
 ぶ、読む) である。学校図書館から、公共図書館  
 活用ができるようになってほしい。

○新学習指導要領について

学校図書館 (利用)

- ・国語科の中に位置づけられている。
- ・学校図書館を使って学習をすすめる。
- ・指導の指標になっていく
- ・「主体的・対話的で深い学び」の「対話的」と  
 いう部分で、先哲の教えを手にとる (対話する)  
 ことができるのは図書館である。

○学校と家庭との交流が大切

(例) 家の人からのおすすめの本を紹介してもら  
 う活動は、活動を継続することで家庭に定着して  
 いる。

## 3 指導内容

○冊数増加への積極的取り組み